様式３

教員資格及び教育内容等の自己評価書様式

【自己評価 1-1】専任教員の配置状況

学部・学科等の名称	専任教員数								非常勤教員	専任教員一人あたりの在籍学生数	備考
	教授	准教授	講師	助教	計	基準数	うち理学療法士又は作業療法士数	助手			
医学部保健学科理学療法学専攻	5 人	1 人	1 人	4 人	11 人	6 人	8 人	0 人	35 人	7.6 人	
計	5 人	1 人	1 人	4 人	11 人	6 人	8 人	0 人	35 人	―	

【自己評価 1-2】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	理学療法士又は作業療法士である専任教員の配置人数が適正であり、かつ関連領域を教授できる医師等の専門家が配置されている。	3
	理学療法士又は作業療法士である専任教員の配置人数が適正である。	2
	理学療法士又は作業療法士である専任教員の人数が適正でない。	1

【自己評価 1-3】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	全ての養成施設指導ガイドラインの教育内容（講義）を専任教員か、専任教員と同等以上の知識を有する教員が担当している。	4
	９割以上の養成施設指導ガイドラインの教育内容（講義）を専任教員か、専任教員と同等以上の知識を有する教員が担当している。	3
	８割以上の養成施設指導ガイドラインの教育内容（講義）を専任教員か、専任教員と同等以上の知識を有する教員が担当している。	2
	上記以外である。	1

【自己評価 1-4】当てはまる自己評価欄に〇をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
	専任教員（理学療法士又は作業療法士）は、全員が臨床に携わることで臨床能力の向上に努めている。	3
〇	専任教員（理学療法士又は作業療法士）は、一部が臨床に携わることで臨床能力の向上に努めている。	2
	専任教員（理学療法士又は作業療法士）は、臨床に携わることで臨床能力の向上に努めていない。	1

【自己評価 2-1】

分野（基礎・専門基礎・専門）	指定規則 教育内容	相当授業科目名	担当コマ数	担当教員	
				氏名	職名（専任・兼任）
基礎	科学的思考の基盤 人間と生活 社会の理解	学びのリテラシー(1)	15	山上徹也、他	専任
		学びのリテラシー(2)	15	吉田秀文、他	兼任
		英語	30	岡田和子、他	兼任
		スポーツ・健康	30	新井淑弘、他	兼任
		データサイエンス	15	鈴木裕之、他	兼任
		教養系 人文、社会、自然科学、健康科学、外国語教養科目、総合科目	90	村田祥子、他	専任・兼任
		物理学	15	豊村暁	専任
		医療統計学	15	大庭志野	専任
		臨床心理学	8	村田祥子	専任
		コミュニケーション論Ⅰ	8	近藤浩子、他	専任
専門基礎	人体の構造と機能及び心身の発達	解剖学Ⅰ	15	三井真一	専任
		解剖学Ⅱ	15	三井真一	専任
		解剖学実習Ⅰ	23	三井真一、他	専任

		解剖学実習Ⅱ	23	三井真一、他	専任
		生理学Ⅰ	15	藤田行雄	専任
		生理学Ⅱ	15	藤田行雄	専任
		生理学実習	23	山路雄彦、他	専任
		人間発達学	15	十枝はるか、臼田滋	専任
		運動学Ⅰ	15	臼田滋、他	専任
		運動学Ⅱ	15	臼田滋、他	専任
		運動学実習	23	臼田滋、他	専任
		機能解剖学	8	山路雄彦、他	専任
	疾病と傷害の成り立ち及び回復過程の促進	栄養学	15	大山良雄	専任
		基礎医学Ⅰ（免疫学・微生物学）	15	齋藤貴之	専任
		基礎医学Ⅱ（病理学）	15	斎尾征直	専任
		基礎医学Ⅲ（薬理学）	15	大西浩史	専任
		臨床医学総論	15	大山良雄	専任
		全人的医療論	8	小澤厚志、他	専任・兼任
		老年学	8	久田剛志	専任
		救急医学	8	横山知行、篠崎博光	専任
		健康教育論	15	石川麻衣、他	専任
		臨床病態学Ⅰ（内科）	15	久田剛志、他	専任
		臨床病態学Ⅱ（小児）	15	久田剛志	専任
		神経内科学Ⅰ	15	藤田行雄	兼任
		神経内科学Ⅱ	15	藤田行雄	兼任
		整形外科学Ⅰ	15	田鹿毅	専任
		整形外科学Ⅱ	15	田鹿毅	専任
		精神医学Ⅰ	15	菊地千一郎	専任
		精神医学Ⅱ	15	菊地千一郎	専任
	保健医療福祉とリハビリテーションの理念	医療生命倫理	15	内田陽子	専任
		チームワーク原論	8	篠崎博光、他	専任・兼任

		統合保健医療論	8	岡美智代、他	専任・兼任
		地域保健医療推進論	8	佐藤由美、他	専任
		公衆衛生学	15	佐藤由美、牧野孝俊	専任
		社会福祉論	15	牧野孝俊	専任
		国際病原生物学演習	15	徳舛富由樹、鬼塚陽子	専任
専門	基礎理学療法学	人間工学概論	8	令和 6 年度非開講	
		医療工学	8	令和 6 年度非開講	
		理学療法学概論	15	臼田滋、他	専任
		PBL 入門	15	臼田滋	専任
		理学療法基礎学Ⅰ	15	臼田滋	専任
		理学療法早期体験臨床実習	23	山路雄彦、他	専任
		卒業研究Ⅰ	23	臼田滋、他	専任
	理学療法管理学	理学療法管理学	15	山上徹也、他	専任・兼任
	理学療法評価学	臨床運動学	8	山路雄彦、佐藤江奈	専任
		理学療法研究法入門	8	山上徹也	専任
		理学療法基礎学Ⅰ	15	臼田滋	専任
		理学療法基礎学Ⅱ	15	小林匠、他	専任
		基本的臨床技能実習Ⅰ	23	山上徹也、他	専任
		基本的臨床技能実習Ⅱ	23	山上徹也、他	専任
		特別講義	15	教務部会	専任
		特別実習	45	教務部会	専任
		卒業研究Ⅱ	45	臼田滋、他	専任
	理学療法治療学	チームワークトレーニング	30	篠崎博光、他	専任・兼任
		言語障害治療学	8	山路雄彦、山上徹也	専任

		先端医学研究論	8	三井真一、下田佳央莉	専任
		国際リハビリテーション学	8	李範爽	専任
		理学療法基礎学Ⅱ	15	小林匠、他	専任
		生活環境支援学	15	山上徹也、他	専任
		生活環境支援学実習	45	山上徹也、他	専任
		臨床理学療法学Ⅰ（神経系）	8	臼田滋、朝倉智之	専任
		臨床理学療法学Ⅱ（運動器系）	8	小林匠、他	専任
		臨床理学療法学実習Ⅰ（神経系）	23	臼田滋、朝倉智之	専任
		臨床理学療法学実習Ⅱ（運動器系）	23	小林匠、他	専任
		臨床理学療法学Ⅲ（病態障害学）	15	臼田滋	専任
		症例基盤型実習Ⅰ（神経系）	45	臼田滋、朝倉智之	専任
		症例基盤型実習Ⅱ（運動器系）	45	小林匠、他	専任
		症例基盤型実習Ⅲ（内部障害）	45	小林匠、他	専任
		急性期理学療法学	8	山路雄彦、他	専任・兼任
		応用的臨床技能実習	23	山上徹也、他	専任
		特別講義	15	教務部会	専任
		特別実習	45	教務部会	専任
		卒業研究Ⅱ	45	臼田滋、他	専任

	地域理学療法学	国際医療協力論	8	辻村弘美	専任
		国際保健医療研修	8	教務部会	専任
		国際・地域ボランティア研修	8	教務部会	専任
		チームワークトレーニング	30	篠崎博光、他	専任・兼任
		症例基盤型実習Ⅳ（地域・在宅）	45	山上徹也、佐藤江奈	専任
		スポーツ・健康管理理学療法学	8	山路雄彦、他	専任
	臨床実習	理学療法臨床実習	90	山路雄彦	専任
		理学療法総合臨床実習	360	山路雄彦、他	専任
		理学療法選択臨床実習	45	山路雄彦	専任

【自己評価 2-2】当てはまる自己評価欄に〇をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
〇	養成施設指導ガイドラインに基づき、教育課程を体系的に編成している。	3
	養成施設指導ガイドラインに基づき、教育課程をおおむね体系的に編成している。	2
	養成施設指導ガイドラインに基づいていない、または教育課程を体系的に編成していない。	1

【自己評価 2-3】当てはまる自己評価欄に〇をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
〇	シラバスにすべての授業科目の授業計画、全体目標、成績評価基準・方法を明記している。	4
	シラバスにすべての授業科目の授業計画、全体目標、成績評価基準・方法をおおむね明記している。または、大半の授業科目の授業計画、全体目標、成績評価基準・方法を明記している。	3
	シラバスの記載が十分ではない。	2
	シラバスが作成されていない。	1

【自己評価 3-1】当てはまる自己評価欄に〇をつけてください。

自己評価	評価内容	判定

○	養成施設指導ガイドラインに従った診療参加型による臨床実習を実施している。	4
	養成施設指導ガイドラインに従った診療参加型による臨床実習をおおむね実施している。	3
	養成施設指導ガイドラインに従った診療参加型による臨床実習を十分に実施していない。	2
	養成施設指導ガイドラインに従った診療参加型による臨床実習を実施していない。	1

【自己評価 3-2】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	講義と関連の実習が十分に連動して実施されている。	4
	講義と関連の実習がおおむね連動して実施されている。	3
	講義と関連の実習が十分に連動して実施されていない。	2
	講義と関連の実習が連動して実施されていない。	1

●基本情報：臨床実習の見学又は実践する範囲とそれに関連する講義科目それぞれの開講時期を記入してください。

臨床実習の見学又は実践する範囲	開講時期	関連講義名	開講時期
理学療法関連施設における、理学療法士およびその他の専門職種の役割・業務の見学	1 年前期	理学療法概論	1 年前期
		チームワーク原論	1 年前期
		解剖学Ⅰ、Ⅱ	1 年前期
理学療法の各種評価方法の見学と実践	2 年後期	理学療法基礎学Ⅰ、Ⅱ	2 年前期
		基礎医学Ⅰ、Ⅱ（免疫学、微生物学、病理学）	2 年前期
		運動学Ⅰ	2 年前期
		運動学Ⅱ	2 年後期
		運動学実習	2 年後期
理学療法の評価の実践	3 年後期	臨床病態学Ⅰ、Ⅱ（内科・小児科）	2 年後期
		生活環境支援学・実習	2 年後期
		チームワークトレーニング	3 年前期
		臨床理学療法学・実習Ⅰ（神経系）	3 年前期
		臨床理学療法学・実習Ⅱ（運動器系）	3 年前期
		臨床理学療法学Ⅲ（病態障害学）	3 年前期
		神経内科学	3 年前期
		整形外科学	3 年前期
		運動器系の理学療法（含む実習）	3 年前期

		神経系の理学療法（含む実習）	3 年前期
		臨床運動学	3 年前期
理学療法の評価・治療・管理業務等の総合的な実践	4 年前後期	症例基盤型実習Ⅰ～Ⅳ （神経・運動器・内部障害・地域）	3 年後期
		基本的臨床技能実習Ⅰ、Ⅱ	3 年後期
		急性期理学療法学	4 年前期
		スポーツ・健康管理理学療法学	4 年前期
		応用的臨床技能実習	4 年前期
		理学療法管理学	4 年前期

【自己評価 3-3】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	養成所指導ガイドラインで定める要件を満たす主たる実習施設で十分な臨床実習が実施されている。	3
	養成所指導ガイドラインで定める要件を満たす主たる実習施設で一部の臨床実習が実施されている。	2
	養成所指導ガイドラインで定める要件を満たす主たる実習施設を置いていない。	1

【自己評価 3-4】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	適正な臨床実習指導者の下で実習が実施されている。	4
	適正な教員の監督指導の下で実習がおおむね実施されている。	3
	適正な教員の監督指導の下で実習が十分に実施されていない。	2
	適正な教員の監督指導の下で実習が実施されていない。	1

【自己評価 3-5】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	臨床実習におけるハラスメント防止のための体制があり、対応が十分である。	3
	臨床実習におけるハラスメント防止のための体制はあるが、対応が十分でない。	2
	臨床実習におけるハラスメント防止のための体制がなく、対応も不十分である。	1

【自己評価 4-1】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	自己点検・評価の体制があり、改善に向けて機能している。	3
	自己点検・評価の体制はあるが、改善に向けて機能していない。	2

	自己点検・評価の体制がない。	1

●基本情報：自己点検・評価体制記入してください。

自己点検・評価組織名	大学院保健学研究科附属研究・教育センター評価部門内部質保証に関する評価委員会（カリキュラム評価委員会）（以下「評価委員会」という）
委員名（委員長）	評価委員会：大山良雄（委員長）、金泉志保美、横山知行、小林匠、菊地千一郎、篠崎博光、近藤浩子、岡美智代、神田清子（学外）、神山智子（学外）
組織の開催頻度	評価委員会：1 年に 3～4 回程度
組織の取り組み内容	・ 学生による授業評価の分析
	・ 委員による授業参観の企画
	・ 教育改善の研修会の開催企画
	・保健学科及び保健学研究科の教育課程における教育内容及び方法等に係る自己点検・評価に関すること
	・分野別評価に関すること
	・評価委員会は「群馬大学医学部保健学科の教育課程における教育内容、方法等に係る自己点検・評価及び改善実施要項」に基づき自己点検・評価を行い、教育課程責任者（保健学科長）へ報告する。
自己点検・評価結果の公表	ＨＰで公表（URL：https://www.health.gunma-u.ac.jp/?page_id=8129）

【自己評価 4-2】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	シラバス記載内容を改善する仕組みがあり、シラバスの記載内容の改善が行われている。	3
	シラバス記載内容を改善する仕組みはあるが、シラバスの記載内容の改善は十分ではない。	2
	シラバス記載内容を改善する仕組みがない。	1

●基本情報：シラバス記載内容を改善する仕組みについて記入してください。

該当する仕組み	名称	保健学科教務部会
	委員構成等	小澤厚志（委員長）、新井陽子、國清恭子、辻村弘美、大西浩史、西島良美、久田剛志、山路雄彦、李範爽、川島智幸
	改善の仕組みの実際	・現状のシラバスの記載状況を踏まえて、大学教育・学生支援機構教育アセスメント委員会が取り纏めた「シラバスの記載状況を踏まえた要改善事項について」に基づき、保健学科教育課程専門委員会を通じてシラバス作成での留意事項を各教員に周知している。

【自己評価 4-3】自己点検・評価及び第三者評価の結果を改善に繋げるための取り組みを記入してください。

自己点検・評価及び第三者評価の結果について、改善計画の策定及び実施が必要と認められた場合には、保健学科教育課程専門委員会において改善計画を策定し、教育課程責任者（保健学科長）へ報告し、教育課程責任者は、改善計画を大学教育・学生支援機構大学教育センター学部教務委員会へ提出する。改善計画の見直し等について指示があった場合は、保健学科教育課程専門委員会にて対応することにより改善に取り組んでいる。